

平成26年度 長崎県立北松西高等学校 学校自己評価【総括評価表】

教育方針	◎ 明るく生き生きとした学校を創り、社会に貢献することのできる心身共に健全で調和のとれた豊かな人間の育成に努める。
努力目標	◆ 各教科とキャリア教育との関連性を正しく理解し、教科における活動を実践する。 ◆ 「学力の向上」「生活力の向上」「家庭・地域との連携」を柱に、小中高一貫教育を推進する。

本年度の努力目標

(1)学力の充実と向上を図る。 (2)基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める。 (3)進路指導の充実を図る。 (4)小中高一貫教育の内容の充実を図る。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題	
				前期	後期	総合		
学校の組織的経営力の充実と向上	学校運営の円滑化	教務 学校運営の円滑化と、システム処理の整備。	教職員の仕事が円滑に進むよう教務の計画を事前に示す。 教務の計画を事前に示し、ミスがなければ「3」 1ヶ月前に提示できれば「4」	4	4	B	・年間を通して、行事等の計画・実施要領等は早めに出すことができた。 ・来年度1単位増に関わる日程の調整を図る。(小・中も給食導入のため、時程の変更がある。小中との関連も視野に入れていく。)	
			教職員に役割が明確に伝わるように、わかりやすい実施要項を作成する。 1ヶ月前に提示できれば「4」、役割が明確に伝わる要項であれば「3」	4	4			
			備品・消耗品・周辺機器の整備をする。 必要なもの・システムが整備され、日々の仕事に支障を来さなければ「3」	3	3			
	広報活動の充実	教務 広報活動を充実させることで、地域、保護者、同窓会、小・中学校の理解と協力を得る。	「北松西高だより」の発行。 年5回発行すれば「3」(それ以上発行すれば4)	—	4	B		・高校でのウイークスにおける公開授業も多くの教科でなされ、教科外の先生方の勉強の場にもなった。 ・北松西だよりの発行も、今年度は新しい企画を入れながら、毎月発行することができた。
			授業参観の実施。 ウイークスおよび公開授業を実施し、各々10名以上の参観者があれば「3」(15名以上の参加で4)	4	4			
			webページの定期的な更新。 年2回更新すれば「3」(それ以上更新すれば4)	—	3			
生徒及び教職員の健康の保持増進	保健部 生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる。	定期健康診断を実施し、治療及び予防に努める。 受診勧告書を発行し、受診後は報告書を提出させる。全員の提出があれば「4」	3	3	B	・定期健康診断は計画、事前準備・指導、実施まで例年通り行う事ができた。報告書は9割以上回収できたが、紛失した生徒のみ未回収になった。歯科の事後受診は該当生徒へ個人指導を定期的に行ったが、全員完治には至らず、引き続き経過に合わせた指導を行っていく。 ・ほけんだよりは毎月・臨時に発行できた。また保健美化委員会活動で、文化祭のお菓子に関する展示を作成した。次年度も必要に応じて、情報提供をより多くできるように努める。		
		健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行なう。 計画どおり実施できれば「3」、受診後、完治までの指導・支援ができれば「4」	3	3				
		健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行なう。 毎月・臨時の情報提供を行なったら「3」、計画どおり発行出来れば「4」	4	4				
施設・設備の健康・安全対策	保健部事務局 生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める。	保健部・学校薬剤師による環境安全点検(校舎内外)、安全衛生点検を実施し、問題点があれば、速やかな対策を講じる。	3	3	B		・安全点検の際、いくつかの危険箇所や整備不良箇所が報告された。事務に順次対応をしていただいている。 ・清掃については少人数のため負担が大きいので、できる範囲で取り組んだ。掃除道具の不備があったので、次年度は点検を定期的にし、補充をしていきたい。	
		点検を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」 掃除の徹底。 清掃活動を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3				

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題		
				前期	後期	総合			
学校の組織的経営力の充実と向上	教育課程の充実	教務 進路目標や個の適正に応じた教育課程の作成。	目標にあった特色ある教育課程を編成する。 年間計画通り教育課程委員会が開催できれば「3」	3	—	B	・教育課程の作成については、前期で終了しているため、後期の評価はしていない。来年度学年32単位の学習活動が円滑になされるように時間割等、考えていきたい。		
			生徒の志望進路達成に資する選択可能な講座を編成する。 現行の教育課程の問題点の改善に努めれば「4」 年間計画通り、選択希望調査をおこなえば「3」	4	—				
	総合的な学習の時間の充実	進路指導 キャリア教育を柱とし、3力年を見通した総合的な学習の時間の運営と内容の研究。	キャリア教育を柱とした総合的な学習の時間の年間計画を立てる。 学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば「3」	3	3	B	・卒業レポートに関しては、生徒の意見や考えが反映されていてよかった。しかし、今後は地域のことも念頭に置いたテーマや設定をしてもよいと思う。 ・計画通りに進まない学年もあった。今年度の反省を見直し、余裕をもった指導計画を作成したい。 ・今年度初めての取り組みとなる活動については事前に入念な検討が必要だと感じた。		
			総合的な学習の時間を運営する。 円滑に実施できるように、実施計画を調整できれば、「3」 今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。 担当者に今年度の反省をしてもらい、それを元に次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば「3」	3	3			—	3
多様な教育活動に対応した学校事務の推進	学校の窓口としての適切な対応	事務 外部との接点、情報の出入口としての窓口業務の重要性を認識し、職員室との連携を密にしつつ、より適切で迅速な対応に努める。	適切な来客・電話対応。 挨拶、用件を聞く、担当者への引き継ぎや案内を行うなど標準的な対応がスムーズにできれば「3」	3	3	B	・窓口の各種対応や電話対応は概ね適切に行えた。		
			職員室との連携と適切な対応。 内部の接点として職員室との連携を意識した、適切で迅速な対応ができれば「3」	3	3				
			適正で迅速な会計処理と予算の効果的執行	事務 法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努める。	適正な会計処理。 規則等に則った適正で迅速な会計処理ができれば「3」 予算の効果的執行。 教育活動の理解に基づく効果的執行を教員からの要望にきちんと対応できれば「3」			3	3
	施設・設備の安全管理及び整備・充実	事務 ・学校生活における生徒の活動・行動についての状況把握と理解に基づき、実態に即した、より効果的な施設・設備の安全管理に努める。 ・教育活動の実態に基づき、より適正な施設・設備の整備に努めるとともに、将来を展望した長期計画の策定により、よりよい教育環境の整備・充実を目指す。	校内巡視による実態把握。 校内巡視による安全確認ができていれば「3」 突発的な破損・故障への迅速な対応。 直ちに現場を確認し、対応策していれば「3」	3	3	B	・毎月の定期点検や随時の点検により修繕等の改善を行った。結果的には目的とする施設・設備の安全管理は確保できた。次年度も引き続き実施していきたい。		
			整備計画の策定。 長・短期的視点からの整備計画策定の何らかの準備をしていれば「3」	3	3				

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学力の向上と充実を図る	基礎学力の定着の徹底	教務 基礎学力の徹底を図るとともに、学習のつまずきへの支援対策を講じる。	<p>考査前の西校朝学タイムの充実。 円滑に実施できれば、「3」</p>	3	3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学タイムや考査前指導ともに先生方の協力を得られ実施することができた。 ・日々の課題や長期の休みに出される課題の提出が無理な生徒が出てきている。個別の対応を考えていく必要がある。 ・キャリアの視点を意識した授業への取組も、今年度は研究授業ウィークスを目標に、小中高連携しながら進めることができた。
			<p>基礎学力の不十分な生徒への指導。 考査前の指導計画を立て、実施できれば、「3」</p>	3	3		
			<p>各教科におけるキャリア活動の実践。 キャリアの視点を入れた授業の推進を図る。研究授業における指導案にキャリアの内容が示されていれば「3」</p>	3	3		
	学力の向上	進路指導 計画的・継続的な学習指導を確立し、学力の向上を図る。	<p>補習に積極的に取り組ませる。 怠惰による遅刻・欠席者がいなければ「4」、5%増えることに評価を下げる。</p>	3	3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会においては特定の教員へ負担が集中しないように分担を割り振ることができた。 ・補習や模試の取り組みが甘い生徒も数名おり、この生徒たちへの学習内容の定着をいかに行うかが課題である。 ・βクラス志望者の自主的な学習の取り組みは困難に感じる場面があった。段階を細かく刻んで指示を出せるとよいのかもしれない。
			<p>模試を有効に利用する。 模試を計画通りに実施し、事前事後の指導を徹底する。過去問や本試験の解説がなされていれば「4」</p>	3	3		
			<p>自主学習力を育てる。 家庭学習や学習会等を通して自主学習力を育てる。課題以外での自発的な学習が半数以上の生徒にみられれば「4」</p>	3	3		
	学力の充実と進路指導の徹底	1学年 学力の充実と向上を図る進路指導の徹底を通して、自己認識を高めさせ、各人の進路設計を確立する。	<p>家庭学習の充実。 毎日2時間半以上の家庭学習時間を確保する。 学習と生活の記録調査を毎週行い、60%いれば「3」</p>	2	3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の調査を継続して行い、三者面談でもその結果を保護者に提示した。2学期～3学期第1週までのテストがない週の1日平均学習時間は146分で、テスト期間の平均は270分であった。普段の学習で2時間半以上確保することができた生徒は約70%であった。 ・テスト期間は放課後と休日に学習会を実施し、1学期に比べてテスト期間の学習時間が大幅に増加した。 ・総合学習やLHRを通して職業調べや表現力を高めるための活動を行い、進路意識を高めることができた。 ・個人面談を毎月実施することはできなかった。 ・総合学習と個人面談は特に7月は予定通りに実施できなかった。
			<p>総合的な学習の時間の活用。 総合的な学習の時間を通して進路意識を高める。予定通り実施すれば「3」</p>	2	3		
			<p>個人面談の充実。 個人面談を毎月、家庭訪問を1回実施する。予定通り実施すれば「3」</p>	2	3		
	学力の充実と進路指導の徹底	2学年 適切な時期に個別指導を重ねることで、自己実現に向けての考えを深めさせ、進路達成への取組の充実を目指す。	<p>それぞれの生徒が置かれている状況とその特性や能力を把握する。 個人面談、家庭訪問をとおして各生徒を理解することができたか。</p>	3	3	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の家庭学習状況は前期とあまり変わらなかったが、自分の進路に向けて添削指導など学習に取り組む生徒が増えた。 ・進路達成に向けてそれぞれの教科の課題の量などを調べ、教科による偏りをなくしバランス良く学習できるように指導したい。
<p>各生徒の学力や進路に応じた個人指導を実施する。 学力充実や進路実現のために添削指導や学習会などの具体的な指導を実施することができたか。</p>			3	3			
<p>家庭学習習慣の定着を図る。 毎日2時間以上の家庭学習時間を確保させることができたか。</p>			2	2			
学習習慣の定着	3学年 学力の充実を図り、各自の進路希望の実現に向けて努力させる。	<p>添削指導や補充指導を通して、個々の能力に応じた指導を行う。 個々の能力に応じた添削指導や補充指導を実施できたと、教員の8割以上が判断すれば「3」</p>	3	3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの進路に応じて、生徒が自主的に学習に取り組む、進路実現を目指すことができた。 ・定期考査前の期間も、必要に応じて補充指導を行うなど、生徒一人一人の学力の向上に努めることができた。 	
		<p>家庭学習の習慣化を図る。 8割以上の生徒が、毎日一定時間の家庭学習の習慣がついているなら「4」</p>	3	4			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題	
				前期	後期	総合		
学力の向上と充実を図る	①学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ②毎日の家庭学習2時間以上を基本として、進路実現を図るための学力を身につけさせる。	国語	授業計画について検討し、情報交換をする。	3	4	B	・特に1年生の授業に関して教材や指導計画の情報交換、検討を行っている。また、学習項目の定着を目指した小テストは継続して行うことが出来た。 ・次年度の授業計画について検討を行っているが、漢字検定受検者への支援など、より生徒の学力充実に繋がるよう努力していきたい。	
		授業研究	学期に1回できれば「3」	3	3			
		段階的・系統的で分かりやすい授業を研究、実践する。	学習のつまずきを究明し、その対策を講じる。 具体的な対策が講じられたら「3」	3	3			
				互いに授業を参観し合い、意見交換を行うことで指導力を向上させる。 学期に1回できれば「3」	3	3		
		国語	記述力養成のための指導を授業の中に取り入れる。	2	3	B	・夏期の課題とし、提出させた少年の主張の原稿をもとに添削指導を行った。論理的な文章を記述する上でのポイントを説明することで、発表者だけでなく生徒全員の記述力向上につながるような指導を行うことが出来た。 ・三年生の国語表現の授業において、コラムや手紙などの記述を通して実践的な記述力の育成を図った。	
		小論文指導 生徒の書く力を育成する。	各クラスとも3回実施できれば「3」 「少年の主張」を書かせる。 推敲によって内容が深まった者が7割いれば「3」	—	3			
		地理歴史	公開授業を行い授業力向上に努める。	2	3	B	・公開授業ウィークスを通して、他校種の様子や児童生徒の発達段階等が確認できた。また、離島地区授業力向上支援事業に参加し、言語活動の充実やICT活用法などについて学ぶことができた。今後の学習指導に取り入れ、生徒主体の授業を実践して生きたい。 ・小テストは毎時間実施することができた。1学期に比べると、毎時間の合格率も高まってきた。今後の小テストでは、前時の復習だけではなく、単元ごとの復習なども行い、知識の定着をさらに図りたい。	
		基礎学力の充実	公開授業ウィークス等を利用し授業力向上に努める。年2回以上できれば「3」	3	3			
		授業力向上に努め、生徒の知識の定着を確認、授業に生かす。	小テストの実施 毎時間、前時の復習小テストを実施し、9割の生徒が合格すれば「4」 対外模試対策や休業中に課題を配布し、知識定着をはかる。 4回以上・・・4、3回・・・3 1回・・・2、0回・・・1	3	3			
		公民	新聞記事などを随時ピックアップして、生徒に配布する	2	3	B	・時事問題の紹介・解説は適宜行なうことができた。また、2学期以降は週に1度、生徒に社会問題に対して興味を持たせる、そして表現する力を身につけさせることをねらいとして、生徒による新聞記事紹介の時間も取り入れた。これにより、以前よりも社会問題に興味を持つ生徒が増えてきたので、今後も取り入れていきたい。	
		公民的資質の育成	3回以上/月・・・4、2回/月・・・3 1回/月・・・2、0回/月・・・1	3	3			
		時事問題に興味関心を持たせ、公民的資質を身につけさせる	授業の中で社会に関する時事問題を取り上げ、紹介・解説を行う 3回以上/月・・・4、2回/月・・・3 1回/月・・・2、0回/月・・・1	3	3			
		数学	生徒の実情に合った課題を配布し、家庭学習の習慣をつける。	2	2	C	・課題については継続して配布を行った。苦手な生徒に対しても継続して取り組ませ基礎事項の定着につなげることが課題である。 ・単元テストや小テストは基礎的内容の確認・定着を図る良い刺激とできた。	
		数学への興味関心を喚起する 自主的に家庭学習に取り組ませる。	9割の生徒が取り組んだら、「3」 定期考査前にしっかりと勉強させ、それぞれの目標以上の点数を取らせる。 ほとんどの生徒が目標以上の点数を取れたら、「3」	3	3			
		数学	生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や補習、課題等を利用して解かせる。	3	3	B	・対外試験やそれに向けた対策などを通して、各自が実力を確認し問題に取り組ませることができた。 ・添削指導などで個々人に対応する時間を設けることができた。	
	基本的な計算技術の習得と習熟および図形の基本的性質の理解 四則演算、整式計算、様々な方程式を解けるようになる。角度・立体の体積や表面積をもとめることができる、円の性質を理解する。	7割の生徒が正解できたら、「3」 就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。 ほとんどの生徒が取り組んだら、「3」	3	3				

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学力の向上と充実を図る	①学習のつまづきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。	理科	適切な課題を与える。	4	3	B	・年度当初懸念したように新課程の量の多さに苦慮した1年であった。特に3年生のセンター対策が遅れ、国公立大合格を目指す生徒への学習指導に苦労した。その反省をふまえ現1・2年生では進度を早めた授業展開、模試対策等を行っている。また課題の量と理解の定着のギャップもあり学力の積み残しがないように気を付けなければいけない。そのために復習と進路に応じた対応を行っていききたい。
		進路実現を図るための学力を身につけさせるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める	学習習慣を身につけさせるとともに、学習内容の復習と進路に応じた実践力を育成する。また、提出された内容を元に、理解度を把握し指導に活かす。 課題消化率が9割以上なら「4」 課題消化率が7割以上なら「3」				
	②毎日の家庭学習2時間以上を基本として、進路実現を図るための学力を身につけさせる。	生徒の学習状況や理解度を把握し、進路実現のために必要な学力を身につけさせるための授業の工夫と課題の活用を研究する。	実験観察を積極的に行う。 効果的に実験を実施し、生徒の興味・関心を喚起し、学習内容の理解を高める。 教科全体平均で 半期に3回以上実施できたら「4」 2回以上実施できたら「3」	4	4		
		保健体育	生徒が積極的に集団行動に取り組む。	3	3		
	授業や体育的行事において、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。	体育委員を中心に生徒が主体的に活動し、集団行動の基本が定着しているか。 生涯スポーツを見通した授業づくり。	3	3	B	・後半は特に1年生が、体育委員を中心に主体的に行動できるようになってきた。 ・集団スポーツでは、正式な人数が揃わず簡易ゲームで試合をしたり、男女ミックスのチームで試合や練習をすることが多かった。様々な問題もあり、今後の課題である。	
	集団行動の定着	各領域において基礎基本を身につけ、グループで計画的に練習に取り組んでいるか。 中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。 中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。	3	—			
	保健体育	新体力テストを実施する。	新体力テストを実施する。	3	—	B	・体力テストの中でも、全体的に結果が悪かった長座体前屈の測定を、定期的実施した。意識して運動を行うことにより、記録が大幅に伸びた生徒も数名いた。 ・サーキットトレーニングは実施できる時間が限られ、なかなか継続してできなかった。今後はもう少し時間や種目を検討して実施したい。
		新体力テスト等を活用し、基礎体力の向上を目指す。	新体力テストを5月までに実施し、95%以上の生徒が実施できたら「3」	3	3		
		新体力テストを活用し自己の体力を把握し、日々の授業において基礎運動能力を高める。	新体力テスト結果の活用。 テスト結果の分析から、個々の運動計画を実践させる。	3	3		
			個々の状況に応じた体力の向上。 個々が選んだ体力テストを毎月1回、1種目測定し評価をする。	3	3		
	芸術科	少人数・小集団での活動の実践。	少人数・小集団による活動を取り入れ、生徒同士の学びあう関わりを学期に2度以上実践できれば「3」	3	3	B	・少人数・小集団での活動は本校の生徒の実態に合っており、生徒が相互に教えあったり、学びあう様子がよく見られたので次年度以降も積極的に取り入れていきたい。 ・前期以降は相互評価も取り入れることができ生徒の集中力を引き出したと思うので次年度以降も設定の時期や内容を工夫して取り入れたい。
	協同的な学びの実現	「聴きあう」場の設定。 発表演奏などの機会を設定し、相互に聴きあい、相互評価を学期に2度以上実施できれば「3」	2	3			
	芸術科	リズムテストを随時行う。	リズムテストを随時行う。	3	3	C	・後期はリズムテストに楽譜を階名で早く正確に読むテストを加えた。全員時間内に合格することができ、大いに読譜力の向上につながられたと思う。 ・基礎知識の定着についてはテストの形ではないが、出てきた際には確認をしながら進めることが出来たので前期よりは改善されたと思う。
	基礎学力の定着	一週間に1度リズムテストを行い、時間内に100%の合格なら「4」	3	3			
	読譜力の向上と音楽的基礎知識の定着。	音楽的基礎知識の確認。 一週間に1度程度楽典の確認テストを行い、70%の合格なら「3」	2	2			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
学力の向上と充実を図る	①学習のつまづきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。	芸術科	様々なジャンルの音楽に触れる機会の計画。	2	2	C	・2学期、3学期は鑑賞の授業を積極的に行うことが出来、生徒に芸術作品を身近に感じさせることが出来たと思う。生徒の興味関心を引き出すことに大いに繋がったと思う。 ・実技試験は2学期で2回実施でき、3学期も1回実施の予定であり、実技教科として今後も最低限この試験は実施すべきである。
		生徒の主体的音楽表現力育成	鑑賞と表現の関連をもたせた授業を行うことができた「3」				
	②毎日の家庭学習2時間以上を基本として、進路実現を図るための学力を身につけさせる。	生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な表現能力の育成を目指す。	個別または小集団での実技試験の実施。 学期に2回以上、個別または小集団での実技試験を実施することができた「3」	3	3		
		英語	公開授業・研究授業の実施。	3	4		
	ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める	研究授業ウィークス等を利用して実施し授業力の向上に努める。年間を通して3回以上実施できれば「4」					
	授業力向上と教科指導の充実。生徒一人ひとりが英語を使う場面を増やす。	ALTとのTTにより英語に触れ合う機会を増やす。 TT授業を週1回以上実施しかつ生徒の授業中の発言が授業の3分の1以上あれば「3」	3	4			
	英語	予習の徹底。	4	4	B	・ほぼ全ての生徒に課している予習や週課題に関しては、提出率も定着率も上がってきている。しかし、わずかではあるが、家庭学習の定着がうまくできていない生徒もいるので、今後も継続して指導が必要である。小テストに関しても、不合格者が決まってきたので、モチベーションを上げる工夫が必要である。	
	基礎学力の定着	授業開始前に予習の確認を行う。9割の生徒が予習を行ってあれば「4」					
	英語に関する基本的な知識の習得。	各種テストのやり直しノートの提出。 確実に提出させる。7割以上の生徒が毎回確実に提出したら「3」	3	3			
	英語	進路目標に応じた英語指導の充実を図る。	3	3			B
	英語学力と英語運用能力の向上	調査や模擬試験の結果を分析、指導に反映させる。 効果的な指導ができれば「4」					
	生徒一人ひとりの英語学力の向上に努める。	自己学習能力の高揚を図る。音読を中心に正しい発音・アクセント・イントネーションの指導。 ディクテーションやシャドーイングな様々なリーディングの効果的な利用で英語力の向上を図る。7割の生徒が英文を正しく読むことができれば「3」	3	3			
	家庭	保育実習の実践	—	4	B	・被服製作では生徒それぞれが課題を持って取り組み、作品を完成させ、文化祭で展示することができた。保育や食物の授業では、検定を活用し、実践力を高めることができた。	
	家庭生活を営むために必要な能力を身につける	乳幼児ふれあい体感を通して、男女協力して家庭や地域の生活を創造するための知識と技術を習得させる。効果的な指導・体験実習ができれば「4」					
生活に必要な知識と技術を習得させ、生活を創造する能力と実践的態度を育てる。	実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習の充実 文化祭での作品展示を目標に作品製作を行う。最後まで作品を完成させることができれば「3」	2					3
	調理の工夫と実践	調理実習では年間10回以上を目標とする。安全に配慮し、効果的な調理実習ができれば「3」	3	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題	
				前期	後期	総合		
基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める	基本的な生活習慣を身に付けさせる	生徒指導 集団の秩序を守り、高校生として責任と規律ある生活態度の確立を目指す。	高校生さわやか運動(服装)を推進する。	3	3	B	・服装頭髪検査では合格率が87.5%であり、目標は達成できた。次年度の課題として、再検査を受ける生徒の固定化の解消があげられるので、担任や学年、部活動顧問などとの連携をとりながら「さわやかな身なり・服装」の意識を定着させていきたい。	
			指導されなくても自ら整える姿勢を養う。毎回の服装頭髪検査で8割以上が合格なら「3」					
			高校生さわやか運動(挨拶)を推進する。 風紀委員を中心に挨拶運動を実施。年に5回以上実施できれば「3」					
	時間の厳守。	3	3					
	指導されなくても規律ある行動ができるよう育てる。各行事5分前行動ができれば「3」							
	交通マナーの遵守を徹底させる	生徒指導 自転車乗車マナーの向上。	自転車整備の徹底。	3	3	B		・集会などの機会を利用して、必要に応じて交通マナー指導が年に3回以上出来た。 ・駐輪場の点検は問題があれば適宜呼びかけなどを行うことが出来たので次年度以降も継続したい。
			整備不良については早急に改善させる。年3回の自転車点検で合格が8割以上で「3」					
			全校集会などで自転車乗車マナーを指導する。 夜間無灯火・並走・傘差し運転の禁止。マナー指導が各学期に1回実施できれば「3」					
	駐輪場の整理整頓。 全車、駐輪場の車止めに停車させる。毎月の駐輪場点検が実施できれば「3」	2	3					
学校、保護者、地域社会との連携	生徒指導 保護者、地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。	保護者・地域との連携。	2	2	C	・メディア安全講習会などに参加した際のパンフレットや資料などを通知表に同封することで、保護者への啓発を行うことが出来てよかった。次年度以降も、学年や他の分掌などとの連携を図ること、生徒の健全な育成を目指したい。		
		情報を共有し、生徒の健全育成に努める。健全育成保護者会を年に1回実施できれば「3」						
		職員間の連携。						
問題行動が起きた場合は素早く情報を共有する場を設定する。機に応じて情報交換ができれば「3」	3	3						
携帯電話の危険性の啓発。 携帯電話やネットを正しく利用できるように保護者と協力体制を築く。保護者への説明を年に1回できれば「3」								
生徒の自治的活動の活性化	生徒会 活気ある学校づくりに、生徒一人ひとりが主体性を持って取り組む精神を養う。	学校行事への積極的参加。	3	3	B		・行事の際は生徒会執行部を中心に、皆で協力する体制が出来上がっている。下級生も自ら動こうとする姿が見られてきたので、必要に応じて適宜声かけ・指導をしていきたい。 ・委員会活動においては、体育祭や文化祭などの種々の行事でそれぞれの委員会が活発に活動することが出来たと思う。	
		各行事で生徒が主体的に企画・運営に関わる生徒主体となるよう生徒会の活動を支援できれば「3」						
		各専門委員会活動の活性化。 各委員会で努力目標を設定し、それを達成する。問題点の把握とその改善に向けて努力する姿勢を養う。						
部活動の充実のための支援	生徒会 体育部・文化部が充実した活動ができるよう、積極的に支援する。	部活動全員加入。心身共に成長できるよう支援する。	3	3	B			・生徒は部活動に全員加入し活動することができた。一部の生徒の活動が消極的であることから、保健部などとの連携を図りながら健全な成長を支援していきたい。 ・部顧問会も必要に応じて適宜行い、情報の共有化が図られたと思う。
		全校生徒が部活動に所属すれば「3」						
		部顧問会の実施。情報交換および部活動規定の見直しを行う。 部顧問会を年に1回実施できれば「3」						
問題を抱える生徒の早期発見と対処	保健部【教育相談】 学年及び分掌との連携を密にし、生徒の持つ問題点や悩みの解消に努める。	担任との情報交換、諸検査の活用で生徒の実態をつかむ。 計画通りに諸検査・各調査を実施し、その結果の報告を行うと「4」	3	3	B	・各調査は計画通り実施できた。結果は職員会議で情報共有し、共通理解を踏ったが、具体的な支援までは繋げることができなかった。今後、個人支援が必要な生徒については担任・学年と密に連携していく。 ・前期に引き続きカウンセリングが必要な生徒に、派遣事業を活用し、生徒・保護者への面談を行った。また随時、教育相談委員会を開き情報を共有した。カウンセリングや派遣事業の活用は継続して行っていきたい。		
		個人面談や問題を抱える生徒との面談を行う。						
		学年・保健室との連携を密にし個人面談やカウンセリング活動を実施したら「4」						
	4	4						

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
基本的 生活習慣の 確立を図り、 規範意識の 高揚に努める	特別支援教育に関する 研究および実態把握	保健部〔特別支援〕 特別支援教育について教員の研 修に努めるとともに、特別支援を 必要とする生徒の実態把握に努 める。	特別支援教育に関する職員研修の実施。 職員の意識調査と特別支援教育に関する情報提供を実施したら「4」	2	2	C	・個別の教育支援計画を作成し、保護者に承認を得た。 次年度初めに職員へ情報提供をし、理解をしてもらい、 支援計画のスマールステップをクリアしていけるようにし たい。 ・今年度は特別支援教育の職員研修を実施することがで きなかった。特に軽度発達障がいに関する研修を次年度 は計画したい。(特別支援教育コーディネーター会では事 例研究会を実施した。)
			特別支援教育を必要とする生徒の実態把握。 職員会議などで、職員全体に特別支援教育を必要とする生徒の実態把握をうな がしたら「3」	3	3		
			特別支援教育を必要とする生徒の個別の教育支援計画作成。 保護者、担任と連携を取り、個別の教育支援計画を作成し、活用する。	3	3		
	自律の精神をもち、学校 生活に積極的に臨む姿 勢を確立する	1学年 礼節・容儀・環境美化の大切さを 自覚させ、基本的生活習慣の定 着を目指す。	端正な服装・頭髪への心がけをもたせる。 服装頭髪検査を定期考査毎に実施する。 9割の生徒が合格すれば「3」	3	2	C	・頭髪服装検査の年間達成率は80%であった。一度目 の検査で必ず合格させる指導を行う必要がある。 ・1月第2週までの出席率は100%であった。体調不 良者が出ることもあったが、我慢して登校していた。一部 遅刻者が見られたので、始業5分前着席完了の指導を 徹底したい。 ・清掃活動に関しては継続して積極的に取り組む姿が見 られたが、挨拶の声の大きさがやや小さくなってきている のが気になる。
			安易に欠席しない態度の育成。 出席の大切さに関する話を、毎週SHRで行う。 出席率が99%であれば「3」	3	4		
			挨拶の励行と清掃活動への積極的な取り組みをうながす。 積極的に挨拶をし、清掃活動に意欲的に取り組む。 8割以上の生徒が取り組みれば「3」	3	3		
	集団の中の「個」としての 積極的な行動	1学年 学級活動・部活動・学校行事等へ の積極的な参加により、協調性・ 自主自律の態度を養わせる。	学級活動への積極的な参加。 ホームルーム活動に積極的に参加している。 各係活動が日常的に機能していれば「3」	3	3	B	・普段の係活動は継続して良く機能していた。 ・部活動にはほとんどの生徒が積極的に参加していた が、一部課題未提出や体調不良により参加できない生 徒もいた。 ・体育祭や西高祭ではクラスでまとまり、成功させること ができた。
			部活動への積極的な参加。 生徒が積極的に参加している。 日常的に8割の生徒が活動していれば「3」	3	3		
			学校行事への積極的な参加。 積極的に参加し各学年と協力している。 協力的な姿勢が見られたら「3」	3	3		
	学校生活でのルールや 時間を守る指導の徹底	2学年 挨拶・時間・環境美化の大切さを 自覚させ、基本的な生活習慣の確 立を目指す。	挨拶の励行 授業の始業・終業時に100%の生徒が挨拶をする。 日常的な場面においても自ら挨拶ができれば、「4」	4	4	C	・挨拶は修学旅行などを通して身につけてきているが、 時間については守ることが出来ていない生徒が散見され る。根気強く指導していきたい。 ・年末・年始にかけて体調管理が出来ずに早退・欠席す る生徒が続出したので、今一度学校だけでなく家庭での 生活習慣の確立を目指し指導したい。
人と接するときのマナーの向上 目上の人と接するときの言葉遣いや態度が身につけているか、また決められた 時間を見越した行動ができていないか。			3	3			
時間の厳守 登校時、始業時の遅刻が0である。 自主的に時間を見て行動できたら「4」			3	2			
基本的生活習慣および 落ち着いた生活態度	3学年 基本的生活習慣を身につかせ、 社会に対応できる人物の育成を めざす。	安易な欠席をしないよう指導する。 月間の遅刻・欠席者数がクラスの10%以下であれば「4」	4	4	A	・生徒一人一人が自己の健康管理を行い、ほとんどの生 徒が無遅刻・無欠席で登校することができた。 ・服装頭髪検査についてもほとんど合格し、日常的に服 装頭髪に乱れがある者はいなかった。	
		社会生活に対応できる容儀の指導を行う。 定期考査毎に服装検査を実施し、90%以上の生徒が検査項目を守っているなら 「4」	4	4			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
進路指導の充実を図る	進路意識の向上・進路実現	進路指導 将来の職業意識を持たせ、生徒の能力や適正に応じた進路意識の向上を目指す。	進路講演会の実施。 専門知識に長けた外部講師を招き進路希望に合わせた講演会を実施する。生徒の満足度が高ければ「4」	4	4	B	・インターンシップについては大きなトラブルもなく無事終えることができた。それぞれの進路への意識を高める良い機会となった。 ・検討会は1, 2年を同日実施にすると学年団からの情報提供以上のものが得られないので、会の設定や事前準備の方法について考えたい。 ・進路指導部として教科へのお願いが遅かったり不足したりしていた。生徒一人ひとりの進路実現に向けて早期の段階から計画、見直しを立てなければならない。
			進路検討会の実施。 進路検討会・学力検討会の結果を基にそれぞれの生徒に適切な進路指導ができれば「4」	4	3		
			インターンシップの実施。 積極的にインターンシップに参加させ社会性や職業観を養う。生徒の満足度が高ければ「4」	-	4		
	進路希望の実現	3学年 個々の進路目標を明確にし、進路達成に向けての取り組みを充実させる。	生徒が必要とする情報を適宜提供し、進路意識の向上を図る。 8割以上の生徒が具体的な進路目標をもつことができれば「3」 納得のいく進路実現ができれば「4」	3	3	B	・進路指導については、生徒それぞれの志望や適性を踏まえて、何度も面談を重ね、生徒の進路実現に向けて学年で協力して取り組むことができた。 ・生徒達はそれぞれの目標を持ち、進路学習に取り組むことができた。
	個人面談・三者面談を実施し、家庭と学校との共通理解のもと進路指導を行う。 各学期2回以上面談が実施できれば「3」	3	4				
小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高一貫教育の内容検証と改善	教務 小中高一貫教育の研究・活動の充実を図り、その教育方針の達成を目指す。	小中高一貫教育に関する会議日を設定する。 毎月1度「小中高教務部会」を設定できれば「3」 オープンスクールや入試説明会を実施する。 中学校・中学生・保護者に本校の教育方針等を伝えることができれば「3」	3	3	B	・オープンスクールについて、参加生徒のアンケート等を見ても、本校を概ね理解してもらえたと感じている。来年度以降も、オープンスクールにおける「授業体験」の協力をお願いしたい。
	学校行事におけるリーダーシップの発揮	3学年 最高学年としての自覚を促し、学校行事においてリーダーシップを発揮させる。	学校行事や部活動を通して、リーダーシップの発揮を促す。 行事に積極的に参加し、下級生に対してリーダーシップを発揮できたと、教員の8割以上が判断すれば「3」	3	4		
	小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育の推進	2学年 中学学年としての自覚を持たせ、地域に開かれた明るい校風の樹立を目指すように指導する。	学級活動への積極的な参加を図る。 クラス委員や係・清掃・その他の学級活動に積極的に参加していたか。 部活動への積極的な参加を図る。 日常的に90%の生徒が積極的な活動ができていたか。 学校行事への積極的な参加を図る。 積極的に参加し各学年や小中学生と協力できたか。	4	4	B	・体育祭や文化祭、修学旅行といった行事では積極的に参加する姿が見られた。また、任された役割を果たすだけでなく、他の生徒と協力して目標を達成しようとする態度が見られた。 ・今後は、継続して率先して行動に移すように促していき、各々の進路実現につなげていきたい。
			3	3			
			3	3			
	小中高一貫教育	国語 小中高職員で協力し、継続的な指導の研究を行う。	公開授業を実施し、意見交換を行う。 年に1回以上実施できれば「3」 各校種の現状について、情報を交換する。 年に1回以上実施できれば「3」	3	3	B	・研究授業ウィークスでは小学校での開催となった。授業の検討、授業の見学、事後の意見交換等を通して各校種の現状について理解を深めることが出来た。今回得た知見をもとにより効果的な教育を行えるようにしたい。
		3	3				

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				前期	後期	総合	
小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める	理科 小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を推進する。	小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。	4	4	B	・今年のテーマ「電気現象について科学的に考える力の育成」に基づいて公開授業、研究授業を実施し小中高12年間での授業のつながりをあらためて確認できた。他の分野の科目についても同様にそれぞれの立場で実施している学習内容、授業方法を見直し、共有し来年度の理科授業の在り方を考えるきっかけとなった。
			小中高12年間の理科教育で実施する実験リストを作成し、情報を共有する。(今年度は物理) 実験リストの実験について研究協議できたら「4」 実験リストを作成し共有できたら「3」				
	公開授業の実施。 小中高の教員で授業内容の協議を行い、公開(研究)授業後に授業研究を行う。 2人とも公開(研究)授業を実施したら「4」 1人が公開(研究)授業を実施したら「3」	3	3				
	郷土学習を進め、郷土を愛する心を育てる	家庭 地域保護者との連携を深め、郷土について学習する機会を作ることにより、郷土についての知識と愛着を深める。	地場産物を使った調理実習を行う。 1回の調理実習で、小値賀産の食材を2種類以上使用できたら「3」	3	4		
	小中高間での連携の活発化	家庭 共同の授業研究を行い、小中高の連携を図って段階的な学習内容や行事を検討する。	小値賀の特産品や農作物を知る。 調べ学習を行い、小値賀の特産品や農作物についてまとめることができたら「3」	—	2		
			郷土料理教室の実施。 地場産物を用いて、郷土料理を完成させることができたら「3」	—	4		
小中高間での連携の活発化	家庭 共同の授業研究を行い、小中高の連携を図って段階的な学習内容や行事を検討する。	共同の授業研究 1時間以上の授業研究会を3回開催することができたら「3」	2	3	B	・昨年度よりも教科部会を多く開催でき、情報や意見交換を活発に行うことができた。テーマにそった授業研究を行うことができたが、アンケートを取るなどのデータの蓄積が行えなかったため、今後の課題としたい。	
		教材・授業案の蓄積、共有化 年間を通して、新たに試みられた授業内容の授業案化、データ化、教材の蓄積ができたら「3」	3	3			